

実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	51
学校名	富山県立高志支援学校

学校の現状と課題	本校は、肢体不自由のある児童生徒を対象とした特別支援学校であり、障害の重度重複化・多様化が進んでいる。児童生徒一人一人の学びの充実のためには、障害の状態に応じた指導・支援が必要であり、個に応じた手だてや配慮が欠かせない。そのため、教員には、肢体不自由教育に関する専門的な知識や技能を生かして授業実践・授業改善することが求められている。
テーマ(特色)	一人一人の学びの充実を目指した指導・支援の在り方 ～外部の専門家と連携した授業づくり～
設定した「テーマ」の達成状況	児童生徒の学びの充実に向けて、一人一人の障害の状態に応じて指導・支援する際には、肢体不自由に関する専門的な知識や技能が必要であり、理学療法士や作業療法士からの確かな指導助言を受けたことで、適切な実態把握、目標設定ができ、児童生徒の学びを充実させることができた。また、学部ごとに、事後研修会を実施したり、支援のQ&Aを作成したりするなど、研修したことを共有することで、各教員の肢体不自由教育に関する専門性が向上し、児童生徒がもつ力をより発揮できるような授業実践につながったと考える。
実施内容 (具体的に記入する)	○外部の専門家の招へい (1)理学療法士による指導助言(主なもの) ・小学部…側臥位のポジショニングやタオル・クッションの使い方、全身に緊張が入っているときの支援方法 ・中学部…本人がリラックスできる姿勢の取り方について、たんの出しやすい姿勢や対応 ・高等部…車椅子座位でのストレッチ、あぐら座位で取り組む活動 ・分教室…車椅子座位の姿勢の安定について、車椅子に移乗するときの注意点 (2)作業療法士による指導助言(主なもの) ・小学部…バギー座位でのスイッチ操作の支援方法、音楽や図画工作で手を使う学習のときの支援方法 ・中学部…三指でスプーンを持ち一人ですくって口に運ぶための支援方法、食事の際の介助皿の位置について ・高等部…タブレット端末をより操作しやすくするための角度や高さ等の位置、対象物を見ながら手を操作する際の対象物の位置や机の角度、生徒自身ができる工夫について ・分教室…低緊張や力が入りにくい生徒の手の操作の支援方法、SRCウォーカーで活動する前の準備について ○教材教具等の整備 ・指導助言を参考に、教材教具を購入し、授業実践を行った。
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	○成果 ・実際の授業場面で、専門家から具体的な助言をもらったり支援の手本を間近で見せてもらったりしたことで、各学部で教員が抱えている課題解決の糸口となった。また、指導後の様子を専門家に再度参観してもらったことで、児童生徒の実態に合った適切な支援となり教員が自信をもって支援をすることができ、安心して授業を実践することができた。 ・研修会の放課後、学部ごとに担任が学んだことを報告し質疑応答をするなどの勉強会を設けたり、学んだことを授業中や児童生徒の引継ぎ時に実践したりして、教員間で情報を共有した。研修会の対象児童生徒だけでなく、それぞれの教員が担当している児童生徒への支援に活かすことができた。 ・学部ごとに学んだことをQ&A形式の資料にまとめたり、いつでも研修会の振り返りができるように動画を保存したりするなどして、日々の実践に活かせるように工夫している。 ○課題 引き続き、児童生徒の障害の重度重複化・多様化、医療的ケア児の増加など、個々の支援が多岐に渡り、正確な実態把握、適切な目標設定、専門家との連携など、教員の肢体不自由教育の専門性の向上、継承が課題として考えられる。一人一人の教員が得意とする専門分野を有効活用する校内資源の活用、外部研修会の報告による情報共有など、研修方法を工夫していきたい。
対象者(学年・人数など)	全教員73名
実施実績	4月
	5月
	6月
	7月
	8月
	9月
	10月
	11月
	12月
	1月
	2月
	3月